

令和3年度難病医療従事者研修会報告

当院は、平成31年に奈良県難病診療連携拠点病院として奈良県より指定を受け、毎年、難病の早期発見、身近な医療機関での適切な疾病管理や安定した療養生活の確保を図る目的に、県内の難病医療従事者の皆様を対象とした研修会を実施しております。

今年度は、令和4年1月22日にWEB配信で研修会を開催し、医師・看護師・社会福祉士など115名の多職種の方にご参加いただきました。

本研修会の開催にあたり、主催者を代表し、奈良県立医科大学附属病院難病診療連携拠点病院運営検討委員会委員長、奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課課長からの挨拶の後、奈良県健康推進課より「奈良県の難病対策事業」について情報提供を行いました。

講演では、前年度のアンケートをもとに、特に希望の多かった疾患をテーマに、脳神経内科杉江和馬教授より「どう違うの？パーキンソン『病』と『症候群』」と題して講演を行いました。また、今後の難病医療に関わってくる遺伝カウンセリングをテーマに、遺伝カウンセリング室長を兼務している総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門の西久保敏也病院教授より「難病と遺伝カウンセリング」と題して講演を行いました。それぞれの講演の最後には、チャット機能を使っての質疑応答の時間を設けました。



研修後のアンケートでは、たくさんの方より回答をいただくことができ、その中には、「わかりやすく理解が深まった」、「今後の診療にいかしていけると思った」、「患者支援に役立てられる情報を得られた」、「遺伝カウンセリングについて知ることができてよかった」といった感想や、次回の研修会のテーマについても多数のご意見をいただきました。

今後も奈良県の難病医療の向上を目指し、難病医療提供体制の構築に取り組んでまいります。